

理数科課題研究発表会

12月19日(水)、理数科1・2年生による課題研究発表会が開かれました。主たる目的はプレゼンテーションと、それに対する質疑応答、指導助言により、研究内容をさらに発展・深化させ、本校SSHの目標である持続可能な社会の発展を志向する人材育成をめざすことです。また、県内の高校職員や近隣小学校、保護者を含め、多数の方が参観して下さり、SSHの成果を地域に還元することができました。発表テーマは、鹿児島県理数科生徒研究発表大会と同様ですが、今回は、近隣高校の理科教諭に審査員として手伝っていただきました。



生物班：ヤクシマエゾゼミはなぜそこにいるのか



物理班：グリーンフラッシュの謎にせまる



地学班：別府川河川敷で見つかった貝化石層の堆積環境を探る



化学班：もみ殻を最大限に活用したバイオエタノールの生成

9月に行った中間発表会の時に比べ、ポイントとなる箇所が明確化され、資料も分かりやすく提示されるなど、探究の深まりを窺わせました。特に、プレゼン技術がはっきりと進歩し、皆自信を持って堂々とした態度で臨んでいました。わずかな期間で長足の成長を遂げられたことは素晴らしいことだと思います。ただ、審査員からの専門的質問に詰まってしまう場面が見られたことや、会場からの活発な質問がなかった点は、反省材料と言えるでしょう。今後の課題が浮き彫りになり、大変有意義な会となりました。



SSH科学リテラシー講座



本校SSHにおいて、1学年理数科で開発している「SSH科学リテラシー」(6単位)は、自然界や社会のさまざまな変化について科学的知識や概念を理解できるように、「社会と情報」「物理基礎」「生物基礎」で学ぶ学習内容を効果的に配置した教科横断的な学校設定科目です。12月13日(木)には、情報と物理の融合型授業として鹿児島大学理学部の秦浩起准教授に「科学研究に役立つシミュレーション」をテーマに講義していただきました。



